

今年で21回めのアート緑日は
10月6日(土)と7日(日)です



おかげさまで、1994(平成6)年に始まったアート緑日も今年で21回めの開催ということになりました。美術館やギャラリーにこそふさわしいアートではなく、普段暮の生活にこそふさわしいアートを探して、出展者のみなさんもさることながら来場者のみなさんとともに作り上げてきたアート緑日だと思っています。ちょうど今頃は、出展作家のみなさんも出展準備に

余念がなところ。アート緑日の日のために1年をかけて作品づくりをされている方も少なくないとうかがっています。今年もたくさんの方のご来場と、晴天を祈念しています。

会場は昨年と同じ、ycsビルのアトリウム(インドア・ブース出展)と周辺の公開空地(ワゴン出展)コンカード横浜沿い公開空地(テント出展)。全部で120以上のブース(参加作家は250名以上)が出展します(開催時間は6日、7日ともに午前10時から午後5時までです)。

今回は、神奈川フィルハーモニー管弦楽団のみなさんとの初めてのコラボレーション企画。



神奈川フィルハーモニー管弦楽団さんは、神奈川県内唯一のプロフェッショナル・オーケストラ。定期演奏会などの演奏活動の他に、学校などでの音楽鑑賞会を実施されるなど、ホールの中だけでなく、地域密着型の音楽文化を創造しようとして活発に活動されてきました。

その神奈川フィルハーモニー管弦楽団さんが、今年度から、ヨコハマポートサイド地区で、市民のみなさんと企業の方々と新しいコラボレーションのスタイルをつくり出していくための実験的な事業を行っていくことになりました。

そして、まずはヨコハマポートサイド街づくり協議会との共催企画で「A Little Bit Concert」。特別編成の弦楽四重奏曲で、エルガー「愛のあいさつ」やドボルザークの「ユーモレスク」など親しみやすい名曲の演奏を聴かせていただきました。演奏者のみなさんがそれぞれの演奏楽器についての思いを語られる場面もあり、このコンサートならではのアット・ホームな時間を過ごすことができました。

出演 平井茉莉さん&山下佳子さん:ヴァイオリン/高木泰子さん:ヴィオラ/只野晋作さん:チェロ
別府一樹さん:司会

2012年7月8日 午後2時から 幸ヶ谷集会所にて

ヨコハマポートサイド

うみかぜ



特集 神奈川宿って、どこからどこまで?
「仲木戸」/旧町名「御殿町」の由来

開催予告

今年のアート緑日は10月6日と7日

開催報告

神奈川フィルハーモニー管弦楽団のみなさんと
初めてのコラボレーション企画

神奈川宿って、どこからどこまで？

江戸幕府は、東海道の各宿場の最も「江戸寄り」の端に番所を設けて、それを「江戸見附」といい、同様に最も関西方面（上方）に近い場所にも番所を置いて、これを「上方見附」と呼びこの間を公式な「宿場」としました。

神奈川宿の場合、江戸見附は現在の京急・神奈川新町駅近くに上方目付は、今の台町（神奈川台閘門跡の石碑があるあたり）にあったようで、つまりこの「見附から見附まで」が、幕府が認めた公式な「神奈川宿」だったようです。

江戸見附、上方見附を宿場の両端だとすると、中央を流野川が流れている横図になります。実際に宿場の差配も流野川を中心に江戸見附側の神奈川町と上方見附側の青木町に分かれていたようで、大名や公家が宿泊するオフィシャルな宿＝本陣も、それぞれの町に一つずつあり、いずれも、世襲の家がこれを守っていたようです。

台町の日・東海道から高島台へと登る急な坂道の入り口に、神奈川台閘門跡の石碑があります。幕末、攘夷運動による外国人襲撃事件が多発、各国領事館などが置かれていた神奈川宿のセキュリティを高めるために設置された閘門です。ここには、そもそも上方見附がありました。段々な門扉などの施設がなく、相形という土塁があっただけ。風雲急を告げる幕末に外国領事館の要望もあって見附に門扉を設置したというのが閘門だったようです。



神奈川台閘門跡

上方目付

台町の旧・東海道

広重の東海道五十三次「神奈川宿」に描かれたのは、このあたりの風景だったようですが、決して、中心街を捉えたわけではなかったものではないです。しかし、密着に入る旅人を一刻も早くつかまえたかったのか、旅籠や茶屋が集積したのは、むしろ両方の見附付近付近でした。旅籠体宿場全体で江戸時代を通じて60軒前後だったようですが、茶屋なども含めその大半が再見附付近に集中し、繁華街としては、むしろ中心部より賑やかだったようです。

宮前商店街（青木町）



目・東海道の原形が確認できるのは宮前商店街と台町あたりだけ。



仲木戸／御殿町

明治38（1905）年、当初は中木戸駅の名で開業した京急・仲木戸駅。この名称は江戸時代初期、ここに徳川將軍家の宿泊施設が設けられ、その周囲に築られた柵の出入口がこの辺りにあったことにもなっています。現在の神奈川二丁目、神奈川本町、東神奈川一丁目にまたがる場所に、昭和50年代まで「御殿町」という町名もありました。これは、この場所に將軍家の「御殿」（陣屋：宿泊施設）があったことに由来します。周囲には土塁や空堀が巡らされた広大な施設だったようで現在の仲木戸駅と東神奈川駅の間から、横浜駅方面へ向かってJR線と京急線が交わるようになっているあたりまでが御殿の範囲だったのではないかとされています。

江戸時代、神奈川宿は現在の神奈川宿内では有数の大宿場でした。当時、そうしたことからアメリカをはじめとする列強国はあくまでも神奈川を開港場に限定、横浜は毎か川の一部として開港されました。



神奈川道東公園



神奈川道東公園は児童公園の風情もある小さな公園です。しかしながら、ここに昭和39（1964）年まで長延寺というお寺がありました。横浜開港時にはオランダ領事館も設置された古刹で、神奈川宿の江戸見附は、このお寺のすぐ隣の東海道（＝国道15号線）沿いになりました。横浜市の整備した「神奈川宿歴史の道」の東の起点でもあります。



徳川家康から寺額を拝借したという金蔵院（旧・御殿町）東神奈川1丁目から成仏寺（神奈川本町）を結ぶ道には松並木が再現されています。

- 開港当時外国館などになった神奈川宿内の寺院
- 成仏寺（神奈川本町）
アメリカ人宣教師宿舎
 - 慶雲寺（神奈川本町）
フランス領事館
 - 浄龍寺（幸ヶ谷）
イギリス領事館
 - 宗興寺（幸ヶ谷）
宣教師ヘボンが診療所を開所
 - 長行寺（青木町）
フランス公使館
 - 本覚寺（高島台）
アメリカ領事館
 - 長延寺（区画整理によって転出）
オランダ領事館

流の橋近くの「神奈川宿歴史の道」案内板 1